

入力地震動の策定に係る当面の説明内容について

<説明の目的>

前回策定した全体計画（原点に立ち返り一からの検討に基づき入力地震動の算定に用いる地盤モデルの策定を行うための計画）に基づき、技術的な検討を進めデータを積み重ねている状況を報告。

<説明項目>

1. 東側地盤岩盤減衰の検討データ
2. ボーリング調査の状況

<説明内容、資料骨子>

（はじめに）

- ・ 前回会合以降、原点に立ち返り、客観的な視点による一般的・標準的な手法に基づき地盤モデルを策定する観点で、前回会合で示した全体計画に基づき検討を進めており、必要なデータを一つ一つ採取している状況。
- ・ これらの検討にあたっては、外部の専門家による支援を受けつつ検討を実施。
- ・ 本日は、前回以降の進捗の説明。（1. 東側地盤岩盤減衰の検討データ、2. ボーリング調査の状況）

（1. 東側地盤岩盤減衰の検討データ）

- ・ 伝達関数を用いた同定解析を実施し、観測記録の再現が良好な結果が得られている。得られた減衰定数での観測記録シミュレーション結果は、周波数依存なし減衰での結果が周波数依存あり減衰での結果より大きくなる傾向を確認。（中央と同様の傾向）
- ・ 東側地盤での地震波干渉法による分析を試みたが、表層地盤中で波形の特徴が崩れており、入射波と反射波の傾向をうまく捉えることができず、減衰評価は困難と考えられることを説明。また、微動観測結果から、微動レベルは観測記録に比べ無視できるレベルであることを確認。
- ・ 得られた減衰について、文献による既往知見との比較結果を提示。

（2. ボーリング調査の状況）

- ・ 岩盤部分の減衰定数に係る調査：13孔中4孔のボーリングを実施中（スケジュールどおり）
- ・ 表層地盤の物性値に係る調査：ボーリング調査実施準備中

（今後の対応、まとめ）

- ・ 西側地盤の減衰検討データを次回提示。ボーリング調査は年内を目途にデータ取得。
- ・ その後、追加ボーリングで得られたデータを踏まえ、「表層地盤の物性値」および「岩盤部分の物性値」の設定について検討。また、「岩盤部分の減衰定数」については、追加で得られたデータを含めた全てのデータを改めて積み上げ、設定についての検討を実施。

以上